

月刊

2018

5
月号

みんぱく



特集

お金を数える

「企業中心主義的思考」へのアンチテーゼ 出口正之

お金の数え方の世界的統一 山田辰己

貝貨で税金を支払う 深田淳太郎

カネを焼く 早川真悠

お金の価値を測る物差しがない？ 大貫一



《太陽の塔》とは誰か

安富歩

プロフィール
1963年大阪府生まれ。京都大学経済学部卒業後、株式会社住友銀行に勤務。京都大学大学院経済学研究科修士課程に進学。京都大学人文科学研究所助手。97年に博士号を取得。名古屋大学情報文化学助教授。東京大学大学院総合文化研究科助教授等を経て、現在東京大学東洋文化研究所教授。「満洲国」の金融（創文社、日経・経済図書文化賞）など著書多数。

以前から、万博公園関係のメディアに書いてみたいことが一つあった。それは他でもない、太陽の塔のことである。万博公園で働いている人は、否が応でもあれを毎日のように見るはずなので、意見を伺いたいのである。太陽の塔は、日本のサラリーマンの像なのではないか、ということなのだ。

考えてみてほしい。太陽の塔は肩がガツクリと落ちて、お手上げになっている。かなり疲れている感じがする。お腹のいやーな顔は、腑が煮え繰り返るほど腹が立っていることを示す。しかしその怒りが顔に出ることがないように、ガツクリと仮面を被っている。そして背中には、黒い太陽を背負う。これは、彼が「立場」上背負っている「役」を示す。そして外からは見えないが、足下には地底の太陽が押し込められ、体内には生命の樹がある。本当は生き生きとした人間はずなのだが、責任を背負って仮面を被っている、それは解放されない。

もちろん、岡本太郎自身は、こんなことは言っていない。それどころか「万国博に賭けたもの」という文章のなかで、「人間はすべてその姿のまま宇宙にのみち、無邪気に輝いているものなのだ。《太陽の塔》が両手をひろげて、無邪気に立つ立っている姿は、その象徴のつもりである」と言っている。しかし、あの無表情な仮面や、お腹の歪んだ顔や、どす黒い背中を見て、そんなことを思う人はいるだろうか。逆に、高度成長に浮か

れる日本人の自画像を、万博のど真ん中に立ててみせた、とすれば、それは確かに筋が通っているように思う。だからこそ人々は、自分たちの姿が描かれているのを見て、強烈な衝撃をうけたのではなからうか。むしろ同じ文章の別の箇所をこの像は象徴しているように思う。すなわち、

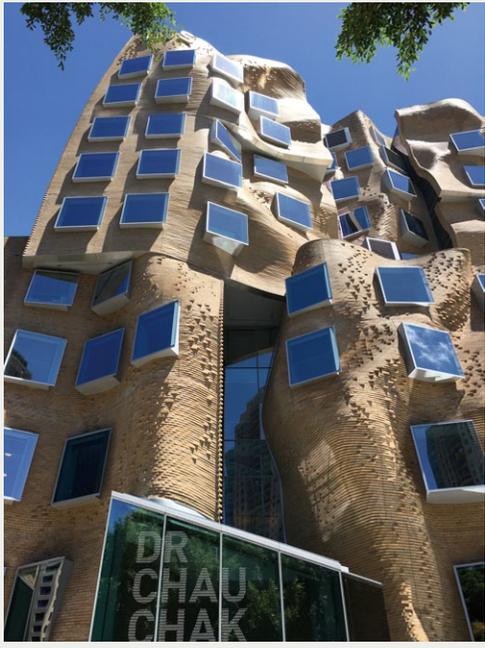
つまり自分が十全に自分ではないのだ。これからますます近代社会が組織化され、システムの網の目が整備されればされるほど、人間はその中の部品にすぎなくなり、全体像、ユニティの感動、威厳を失っていく。たとえ有能であっても、それはパーツとして優れているのであって、人間の全体像を体现することはないだろう。そして情報化時代になり、コンピュータが進めば進むほど、いよいよ本然の衝動が反映しなくなっていく。

つまり太陽の塔は、本然の衝動を抑え込み、システムのパーツとして有能さを発揮し、威厳を失いつつ経済的豊かさに引き換えている日本人のありさまを象徴し、同時に、その抑圧を打ち破り、「底ぬけの豊かさ」「ふくよかな、幅のひろい人間的魅力」を回復しよう、という太郎の呼びかけを表現している。全体に膨らんでいて、今にも破裂しそうなのは、その爆発のエネルギーを示している、と思うのである。

月刊 みんぱく

5月号目次

- | | | | |
|----|--|----|---|
| 1 | エッセイ 千字文
《太陽の塔》とは誰か
安富歩 | 12 | みんぱく Information |
| | 特集 お金を数える | 14 | 想像界の生物相
海の死霊とトビウオ漁
秋道 智彌 |
| 2 | 「企業中心主義的思考」へのアンチテーゼ
出口 正之 | 16 | 新世紀ミュージアム
文字の博物館
菊澤 律子 |
| 4 | お金の数え方の世界的統一
山田 辰己 | 18 | シネ倶楽部 M
アート映画が描き出す
バンダラデシュのアイデンティティ
——「オニール・バグチの一日」
南出 和余 |
| 5 | 貝貨で税金を支払う
深田 淳太郎 | 20 | ながなんちゃ
ニホン語かニッポン語か
ジャパン語かジャパニーズ語か
吉岡 乾 |
| 7 | カネを焼く
早川 真悠 | 21 | 次号予告・編集後記 |
| 8 | お金の価値を測る物差しがない？
——ジンバブエの監査人が頭を抱えた話
大貫 一 | | |
| 10 | 〇〇してみました世界のフィールド
撚りをかけて縄をなう。
知恵を絞って竹を活かす
石山 俊 | | |



非営利の世界的中心的関心は寄付。寄付で建てたシドニー工科大学の建物。世界的建築家フランク・ゲーリーの作品でランドマークになっている。寄付のあるところに会計の話題が付いてまわる(2018年)



日本国内では、非営利会計は企業会計基準に収斂すべきであるという論調が強いなかで、企業会計基準から非営利独自の会計基準へと転換させ、世界をあっと言わせたニュージーランドの外部報告会計委員会(政府機関)(2017年)

新しい議論へ向けて
企業がグローバル化し投資や企業買収というマネー・ゲームが現に起こっているなかでそのルールである会計基準を統一しなければならぬという動きは大変重要である。そのことは十分理解したとしても、そのルールこそは進化したものであり、そのゲームに参加していない例えば公益財団法人の会計基準もそれにあわせなければならぬ、とまで論理が飛躍すれば、そこに明確な「企業中心主義的思考」を見つけることになるだろう。そこで本号では、世界の会計のルール作りから、各地の数の数え方までを示して、会計学者と人類学者の出会いを実現させた。世界標準を作っていかなければならないという必要性と個別事象の正確な把握とをどのように整合していくべきか、新しい議論が今幕を開けたのである。

中心主義からの発言といえるのではないだろうか。
会計学者と人類学者の往還
こうした「企業のものさしを使う」ことが、さまざまなところまで忍び寄っていると警鐘を鳴らしたのは、人類学者のマリン・ストラザンの『監査文化——アカウンタビリティ、倫理、学術における人類学的研究』(邦訳なし)での議論であった。例えば、身近なところでは、企業のIR(投資家向け広報)と同じコンセプトが大学にも看板を少し塗り替えただけでIR(インスティテューショナル・リサーチ)として入り込んできている。ストラザンがそのような発想をした背景のひとつに、マイケル・パワーという会計学者の『監査社会——検証の儀式化』という本の存在があり、そしてパワーがこの本を書いた背景

には、人類学者のメアリー・ダグラスの影響があった。評価してお墨付きを与える行為が儀礼であることを主張したのである。
「お金を数える」文化
「会計」はもちろんアカウンティングの訳であるが、「計算を会わせる」というところから「会計」の字が当てられた。アカウンティングの基礎である「お金を数える」という手法もじつは非常に多岐にわたる。会計学者自身が「会計は言語である」というほど文化的なものである。計算をあわせることはどんな社会でも必要で、世界にはさまざまなお金の数え方がある。当然、人類学者もいろいろなフィールドで「お金の数え方」に出会っているにもかかわらず、気がつけば、現金の動きではない発生主義による損益計算を柱とする企業会計

戦後間もないころの財団法人であった大学の財産目録。縦書き、漢数字の文化

が世界を席捲し、小遣い帳のような現金の流れだけを追う会計は特異な目で見られるようになった。

特集 お金を数える

お金という経済の代名詞的存在は、一見人類学とは無関係に見える。しかし世界を見渡せば、お金の素材や形態、計算・換算方法、はたまた会計報告書の作り方で、お金をめぐる文化はさまざまであることに気づくだろう。本特集では、人類学と会計学を架橋する領域を「お金を数える」という行為から概観する。



- みんなのさまざまな貨幣
1 儀礼用貨幣(腕輪) ザイール H0189939
2 貨幣 エチオピア H0147209~0147222
3 貨幣(腕輪兼用) コートジボアール H0030970
4 儀礼用貨幣(首飾り用玉) ブルキナファソ H0190032
5 儀礼用貨幣(腕輪) ブルキナファソ H0190010
6 投擲用ナイフ(貨幣) ザイール H0118659
7 貨幣(貝貨) カロリン諸島 ヤップ島 H0010162
8 巫俗儀礼用貨幣 韓国 H0214722
9 儀礼用貨幣 ザイール H0189933

「企業中心主義的思考」へのアンチテーゼ

出口正之 民博人類基礎理論研究部

「普通の企業だったら」という枕詞
ある公益財団法人をめぐる議論のなかで最近気になっている枕詞がある。「普通の企業だったら……」というものだ。発言者は理事会、評議員会という法律用語を平気で口にし、公益財団法人だということも強調しつつ、「普通の企業だったら」と発言している。こうした発言に対して社会全体が鈍感になりすぎていないだろうか。あたりまえのことだが、公益財団法人は普通の企業ではありえない。つまり、企業でない組織に、「普通の企業のものさし」をもち込んでいるのである。近年、公益財団法人に対しては政府でも企業でもないという独自性に着目して税制上の優遇を拡大する大改革がおこなわれた。言い換えれば、普通の企業ではないということが大前提のはずだったのだが、「企業のものさし」が堂々と幅を利かせて、当該の団体は大混乱に陥ってしまい、修復不能とも思えるような亀裂を引き起こすことになった。
企業については承知しているという人が大多数という社会のなかで、「普通の企業だったら」という枕詞は、「企業中心主義的思考」のまさに自文化

お金の数え方の世界的統一

山田 辰己

有限責任あずさ監査法人パートナー
中央大学特任教授
元IASB理事

換算のための統一された規則

日本の大企業（親会社）は、世界各地に子会社を作るなどして、グローバルに事業をおこなっているが、グループ全体としての業績はどのように測ったらいいのであろうか。例えば、米国や英国に子会社を作り、米国子会社（A社）では、ドルで資産や負債をもち、売上やそれを得るための費用もドルで管理されており、英国子会社（B社）でも同じようにポンドで管理されているとしよう。さらに、A社およびB社がそれぞれ一〇〇〇万

ドルと一〇〇万ポンドの利益を、親会社は一〇億円の利益を上げているとしよう。このとき、このグループの当期の業績は、親会社は一〇億円、A社は一〇〇〇万ドル、B社は一〇〇万ポンドであったと説明しても、グループの全体像はつかめない。そこで、ふたつの子会社の利益を円で表示すると、A社は一億円（一〇〇〇万ドル×@一〇円）、B社は二億五〇〇〇万円（一〇〇万ポンド×@一五〇円）となり、これに親会社の利益一〇億円を足して、全体で二億五〇〇〇万円の利益を上げた計算ができる。このように、円というひとつの通貨に統一することによって、グループ全体の業績が把握できる。



IASBのオフィス（下）がある英国ロンドン・シティのビル（上）



これを会計の専門用語で説明すると、A社やB社が採算を測るために使う通貨（ここではドルやポンド）を「機能通貨」といい、グループの業績を表示するために選ばれた通貨（ここでは円）を「表示通貨」という。また、機能通貨を為替レートをを用いて表示通貨に変換することを、「換算」とよんでいる。

このような換算のための方法は、ほぼ世界的に統一されている。具体的には、A社やB社が保有すると、A社やB社が採算を測るために使う通貨（ここではドルやポンド）を「機能通貨」といい、グループの業績を表示するために選ばれた通貨（ここでは円）を「表示通貨」という。また、機能通貨を為替レートをを用いて表示通貨に変換することを、「換算」とよんでいる。

このような換算のための方法は、ほぼ世界的に統一されている。具体的には、A社やB社が保有すると、A社やB社が採算を測るために使う通貨（ここではドルやポンド）を「機能通貨」といい、グループの業績を表示するために選ばれた通貨（ここでは円）を「表示通貨」という。また、機能通貨を為替レートをを用いて表示通貨に変換することを、「換算」とよんでいる。

これを会計の専門用語で説明すると、A社やB社が採算を測るために使う通貨（ここではドルやポンド）を「機能通貨」といい、グループの業績を表示するために選ばれた通貨（ここでは円）を「表示通貨」という。また、機能通貨を為替レートをを用いて表示通貨に変換することを、「換算」とよんでいる。

このように、A社やB社が保有すると、A社やB社が採算を測るために使う通貨（ここではドルやポンド）を「機能通貨」といい、グループの業績を表示するために選ばれた通貨（ここでは円）を「表示通貨」という。また、機能通貨を為替レートをを用いて表示通貨に変換することを、「換算」とよんでいる。

二〇一六年にこの規則が変わり、借手はリース契約で「使用权」という資産を取得し、リース期間にわたってリース料を支払う義務を負ったと考えて、資産および負債を認識するという規則に統一された。これによって、オペレーティング・リ

ースかファイナンス・リースかの判断が必要なくなった。

このように、企業活動がグローバル化するに伴って、企業の業績を測るための基準は、国際的な比較が可能となるように統一されつつある。そ

貝貨で税金を支払う

深田 淳太郎
三重大学准教授



タブ作りをする女性（2011年）

「イーストニューブリテン州が貝殻貨幣を法定通貨として公認する見通し」。一九九九年二月一日にパプアニューギニアの日報『ポスト・クーリエ』に載った記事だ。この記事が取り上げた貝殻貨幣は、イーストニューブリテン州のラバウル近郊に住むトライイ人が伝統的に用いていた「タブ」という貝殻貨幣である。

タブはムシロガイという小指の先ほどの小さな巻貝を、藤で作った紐で数珠状につないで作られた貝殻貨幣である。メラネシアでは古くから、このトライイ人のタブ以外にも各民族集団がそれぞれ異なる種類の貝殻貨幣を日常的なモノの交換や婚資の支払い、その他さまざまな儀礼的手続きに用いていた。だが現在では各国政府が発行する法定通貨が津々浦々まで浸透して日常的に用いられる通貨になった結果、貝殻貨幣の多くは結婚や葬式といった儀礼的な局面だけで用いられるも

のようになっていた。いわば「お金」の地位を法定通貨に奪われたのである。そういつたなかで、トライイ人は貝貨タブを今日に至るまで一貫して日常的なモノの売買で使い続けてきた。さらに、この新聞記事が報じているように、一九九九年からは人びとのあいだで用いられるというレベルを超え、州政府が貝貨を法定通貨として公認しようという方針を打ち出し、二〇〇一年にはそのための調査も実施された。

お金としての貝貨

この貝貨の法定通貨化政策において実際に進められたのは、民・官両方での貝貨と法定通貨の交換所の設立と地方政府レベルにおける税金や学校の授業料、あるいは裁判の罰金などの貝貨タブでの支払いの公認であった。貝貨タブは基本的に長さで計量されるもので、両腕を広げたときの左右

手のあいだの幅(約一・八メートル)で一ポコノとよばれる。パプアニューギニアの法定通貨キナと貝貨タブのあいだには、一ポコノ＝△キナという形で交換レートが設定され、税の支払いや交換所での交換がおこなわれている。このレートは地域や時期によって変動はあるが、例えば筆者が長期滞在していた地域では二〇〇三～二〇〇五年のあいだ、一ポコノ＝四キナ(当時の換算レートだと



マーケットでムシロガイと貝貨タブを売る女性。ムシロガイは一山(約330cc)が25キナ(当時のレートで約1200円程度)、タブは10ポコノ(Avinun na Pokono)が70キナ(3500円程度)で売られている(2011年)

一キナ＝四〇円程度)とされ、男性の人頭税八キナは貝貨二ポコノで、女性の人頭税四キナは一ポコノで支払いが可能であった。実際に人頭税の支払いでは貝殻貨幣がかなりの程度用いられるようになった。二〇〇一年にある地方政府の納税台帳を調べたところ、その年に人頭税を納めた二二〇五名のうち五二三名(全体の四三パーセント)が貝貨を用いて支払いをおこなっており、また二〇〇五年の聞き取り調査では州内の九つの地方政府のうちの八つでは貝貨での納税を公認していた。これらの数字からは、実際に貝貨が「お金」として使われている様子を見ることができよう。

あらたなオルタナティブ貨幣としての貝貨

ひとつ間違えてはならないのは、貝貨タブは「まだにお金として使われ続けている」のではないということである。「いまだに」という語には、本来はもう使われなはずのものが、というニュアンスが入っている。一九世紀末の西洋世界との接触以降、常に貝貨タブは「いざれ使われなくなる」と言われてきたが、実際には一貫してお金として使われ続けてきた。そして、今日では政府の公認さえ得ようとしている。「いまだに」という語はむしろわたしたちの側に用いられるべき語なのかもしれない。貝貨は国家の法定通貨に取って代わられいざれ使われなくなると、わたしたち



上：ムシロガイ
下：貝貨タブ

カネを焼く

はやかわまゆ
早川真悠 民博 外来研究員

ジンバブエのハイパーインフレ
南部アフリカのジンバブエ共和国は、二〇〇七年三月から二〇〇九年一月まで、月率五〇パーセントを超えるハイパーインフレに見舞われた。二〇〇八年七月の公式インフレ率は月率二六〇〇パーセント、年率二億三二〇〇万パーセント。こ



100兆ジンバブエ・ドル札(2009年1月発行)

れは、一〇〇円の商品が一月後には約二六〇〇円、一年後には二億円以上に値上がりすることを意味する。物価の上昇は続いたが、中央統計局がインフレ率の公表を止めてしまったため、その後の数値はわからない。

すさまじい物価上昇に加えて人びとを苦しめたのが、モノ不足と現金不足の問題だった。二〇〇七年に政府が価格統制をおこなって以来、店の棚からは商品がほとんど消えてしまった。生活必需品が欲しければ、闇市、つまり売っている人や場所を探し回って買わなければならない。さらに追い打ちをかけたのが、現金不足の問題だ。銀行口座からの現金引き出しが極端に制限され、上限額は米ドル換算すると一日あたり五米ドルにも満たないほどだった。デビット・カードや小切手を使える店も少なく、あったとしてもそうした店で買える商品の種類はごく限られていた。給与生活者たちは、なんとか現金を手に入れようと、連日、銀行の前の行列に並び、何日もかけて月給を引き出した。

一ジンバブエ・ドルはいくらか？

預金があるのに、使えない。そんな理不尽な状況が続くなか、お金は金額(量)だけでなく、その形態までもが問われるようになっていった。銀

は「いまだに」思っているのである。

先述の貝貨の法定通貨化に向けてなされた二〇〇一年の調査を実施したのは、当時世界規模でブームとなっていた地域通貨の立ち上げに世界各地で携わっていたコンサルティング会社であった。ここで貝貨タブは「いまだに残っている伝統」ではなく、資本主義市場経済に対するあらたなオルタナティブとしてとらえられている。その後いったんは下火になった地域通貨は、今日、仮想通貨と結びついて再び盛り上がりを見せている。インターネットを介して国民国家の枠を越えた、もしくはローカルな共同体での人びとの生活に根差した、いざれにしても国家権威によらない、あらたな貨幣の萌芽は「もう」はじまっているのかもしれないのだ。



道端に捨てられたジンバブエ・ドル(2009年)

行やスーパーなどでのフォーマルな取引では、預金だろが現金だろがジンバブエ・ドルは一ジンバブエ・ドル、両者は同じものとみなされる。一方、インフォーマルな取引では、両者はまったく別ものだった。闇市の両替では、現地通貨の受け取りを現金にするか銀行振り込みにするかによって、レートが分けられていた。例えば二〇〇八年七月一九日の場合、現金レートは一米ドルあたり九〇億ジンバブエ・ドル、預金レートは一米ドルあたり四五〇億ジンバブエ・ドル。同じ額面でも現金と預金とでは、価値に五倍の差が

あったのだ。

この特異な状況を利用して、うまくお金を手に入れようとする人たちがいた。それが、現地語のスラングで「カネを焼く」とよばれた方法だ。先ほどの二〇〇八年七月一九日を例に説明すると、次のようになる。まず一米ドルを預金レイトで両替する。すると、四五〇〇億ジンバブエ・ドルが自分の銀行口座に振り込まれる。この日の銀行の引き出し上限額は、一日あたり一〇〇〇億ジンバブエ・ドルだったので、毎日その上限額をATMから引き出せば、最終的に五日間で四五〇〇億ジンバブエ・ドル全額を現金のかたちで手に入れられる。さらに、そうして手にしたジンバブエ・ドルの現金で外貨を買うと、五米ドルを手にする事ができ、四米ドル儲かる。この「カネを焼く」という行為を繰り返せば、(理屈のうえでは) えん

えんと儲けることができるのだ。

焼くか? 焼かないか?

カネを焼くことは、ハイパーインフレ下を生きる人びとの一種の生活戦略だった。ある教会の牧師はこう説いた。「カネを焼くのは、『マナ(神が与えた奇跡の糧)』のようなもの」。しかし、決して尋常とはいえないこの方法に、ためらいを覚える人たちもいた。「牧師は正しいことを言わなければならぬのに、『闇商替などの』違法行為を人びとに薦めていいのだろうか?」

尋常でない生活戦略を問題視した中央銀行は、二〇〇八年一月、RTGS決済システムを停止し、銀行口座への即時振り込みができなくなった。夢中になってカネを焼いていた人びとの姿は、瞬く間に消えていった。



2009年2月のスーパーマーケット店内。国内経済が外貨化され、すべての商品が米ドルなどの外貨建てで売られるようになった

お金の価値を測る 物差しがない?

——ジンバブエの監査人が
頭を抱えた話

おおぬき けいご
大貫一 金沢星稜大学教授

こなっていたはずである。

ところが、ハイパーインフレ経済下では、特別な会計基準(IAS29)が適用される。これを単純化すると、一部の資産・負債を除き、多くの資産・負債の決算時の価額は、前年度末日の価額に、物価の物差しとなる「一般物価指数」を乗じて測定することになる。例えば、一年間で物価が一〇倍になれば、建物・機械などの資産の価値も一〇倍になると考えて計算したうえで決算書を作成する。ジンバブエでも、インフレが昂進するにおよんで、各企業はこの基準を適用することとなった。



首都ハラレ中心部。奥の高いビルが中央銀行(2006年、撮影:早川真悠)

二〇〇七年三月から二〇〇九年一月にかけて、ジンバブエでは、稀に見る物価上昇が続いて、遂には自国通貨を廃止する事態に至った。当時、ハイパーインフレ経済状況下のジンバブエで研究調査をおこなっていた早川真悠氏の手により、極めてめずらしい会計標本の提供があったので、以下、これについて報告したい。

決算書と会計監査

読者の皆さんは、会計監査と聞いてどのようなイメージをもたれるだろうか。昨年、勤務先の大学で市民講座と銘打って会計監査の話をする機会があった。話の冒頭で「会計監査の目的とは」と数名の方に伺ったところ、全員から「不正の発見」という回答を得たが、これには誤解がある。

企業内部の不正や誤りを発見することは、本来、企業側の仕事である。世間では、会計監査人の任務は、企業内で発生する不正を悉く発見するものとの誤解がある。これを世間と実際の業務との「期待ギャップ」という。

経営者の仕事は、会社の決算書を会計基準に則して正しく作成することであり、会計監査人の仕事とは、会社の決算書が会計基準に則して作成され、会社の財政状態、経営成績等を適正に表示しているかについて(監査基準に則して調査したうえで)意見を表明することにある。これを「二重責任の原則」という。

監査人の成果物

監査人が表明する意見はいくつかのパターンがある。監査の結果、特に大きな問題がなければ、決算書は会計基準に則って適正に作成されているという意見(適正意見)が表明される。もし、決算書に非常に大きな間違いや虚偽記載があつて、会社側が修正に応じない、応じられないようであれば、稀なことではあるが、監査人は、決算書は

適正に作成されていないという意見(不適正意見)を表明しなければならない。このほか、極めて異例なことであるが、何らかの理由から監査意見が表明できないというコメントを表明する場合(意見不表明: Disclaimer of opinion)がある。

梯子を外された経営者と監査人

ジンバブエでは、通貨が破綻する最終局面が近付くにおよんで、政府当局が「一般物価指数」を公表することを止めてしまった。このような事態に遭つても、企業側は、株主に決算報告をおこなう必要があるから、いろいろな仮定を重ね、苦心(さんたん)惨憺(さんたん)なんとか物価上昇率を見積もって決算書を作成する。

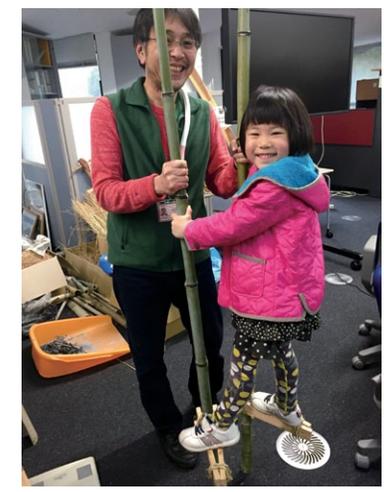
ところが、当局の公表する「一般物価指数」がないのであるから、この決算書が会計基準に従って適正に作成されているか否か、監査人は意見の表明が不可能となる事態に陥った。肝心の会計基準に、当局が「一般物価指数」を公表できなくなった場合の想定がないから、意見表明のしようがない。監査人は、監査報告書に「白旗」(Disclaimer)を掲げる結果となったのである。

ここまでの事態は、会計基準の設定者も想定外であるが、この珍奇な事例を以て会計基準自体に問題ありとする見解は衡平(こうへい)を欠くのではない。経済の舵輪(かじりん)を手放してしまった新興国政府の稀代の不始末との結論が当を得ていると思う。

〇〇してみました世界のフィールド

よ 撚りをかけて縄をなう。
知恵を絞って竹を活かす

いしやま しゅん
石山 俊
民博 プロジェクト研究員



縄と竹を存分に使ってみました
竹馬完成(左が筆者)

日常生活のなかで見かける機会も少なくなった稲藁と竹。現在ではあまり使われなくなつたが、これらの資源の価値はまだまだある。福井で習得した創意工夫の知恵を活かした、大人から子どもまで楽しく実践可能な資源活用術を紹介する。

福井県での農的暮らし

アフリカ乾燥地の農村を研究対象としてきたわたしには、ある引け目が常につきまとっていた。それは、わたしが農家の出身ではないということである。農業をほとんど体験したことがないわたしに農村や農民のことが本当に理解できるのだろうか。こんなコンプレックスを抱き続けていた。

そんなわたしに農村暮らしの機会がめぐってきた。場所は福井県の中山間地。古民家に住み、地域のNPO活動に携わった。活動内容には、稲作や野菜作りをおとした都市ー農村交流も含まれていた。こういったいきさつで、わたしの農的暮らしが始まったのである。四年間の農的暮らしのなかで、近所の方々にたくさん「農家の知恵」を伝授してもらった。そのうちのひとつが縄ないであった。

ワークショップで火がついた縄熱・竹熱

福井の農村を離れて一〇年、ふたたび縄をなうことになった。当時所属していた総合地球環境学研究所のオープンハウス(一般公開)で、縄ないワークショップをすることになったのである。同僚の調査地からもらってきた稲藁を使い、竹で組んだ稲架(はた)がけを模した装飾の前のワークショップは好評であった(写真1)。

ワークショップが終わっても、藁も竹もふんだんに残っていた。縄と竹を使った遊びが思い浮かんできた。

まずは、晩夏の流し素麺(そうめん)。支柱の竹を結ぶのも、木の枝から竹をつるすのも自家製の縄である(写真3)。次は秋の干し柿。これは福井の農村暮らしで覚えたものだ(写真4)。じつはこのとき入手した柿のヘタが短く、縄に直接かけることができなかった。そんな苦境を救ってくれたのが、地球研の縄ない仲間の知恵であった。竹串を柿におし、二本の縄にかける。和歌山県でおこなわれている方法らしい。わたしの縄熱、竹熱は、周囲の知れ渡るところとなり、ある日ふ

たつのリクエストが無い込んできた。

縄と竹が広げるネットワーク

ひとつめは竹馬である。子どものために竹馬を作ってほしいとのことであった。さすがに竹馬を作るのは初めてであったが、試行錯誤の末、竹馬はやつとできあがった。竹馬に乗る桜子ちゃんの満面の笑顔。竹馬は今でも壊れずにいるだろうか、ときどき思い返している。

ふたつめはバウム・クーヘン。某研究員の誕生日祝いに焼いてみたとのこと。バウム・クーヘン作りも初めての体験であったが、知恵を出し合い、三時間にわたる格闘の末になんとか焼き上げることができた(写真2)。ちなみにこのとき使ったU字溝は、先のワークショップで、縄を柔らかくするための「たたき台」として使用したものであった。

使い尽くす楽しさ

縄と竹への情熱も冷めかけたころ、京都に雪が降った。屋根につもるくらいのもまとまった量だった。このとき、突然思い出したのが福井の老人から教えてもらったことだ。「屋根雪を降ろす余裕がないときは、竹で軒先の雪だけ落としておく」と端口(屋根の先端)が折れんですむ。地球研の建物は少々雪ではビクともしないのは当然である。しかし屋根の雪が「ドスツ、ドスツ」と落ちてくるのは多少耳障りだ。老人の教えを実践したのはいうまでもない(写真5)。

さあこれで縄と竹を存分に満喫したと思っていたのだが、最後に浮かんできたのが青竹踏み。竹を五〇センチメートルほどの長さに切つて、希望者に配った。資源を余すところなく使った満足感とともに、わたしの縄と竹の物語はやつと収束を迎えたのである。

縄ないと竹で養った資源利用の実践感覚。これからのフィールド調査に役立つことを願うばかりである。



日本



開館40周年記念特別展
「太陽の塔からみんなくへ」
70年万博収集資料

1968年から1969年にかけて「日本万国博覧会世界民族資料調査収集団」が世界の諸民族の仮面、彫像、生活用品を収集しました。収集活動にかかわる書簡や写真とあわせてコレクションの生い立ちを紹介いたします。これらの資料は、70年大阪万博で太陽の塔(テーマ館)の地下に展示され、現在みんなくへの貴重なコレクションとなっております。



祖先像
(ニューヘブリデス諸島、現バヌアツ)

EMフォーラム
「未来へ集まる、未来へ送る」
自分のところに浮かんだ仮面を描いて、みんなで21世紀の「仮面展示」を完成させましょう。仮面に万博の思い出や未来へのメッセージを書き込んでいただけます。

日時 特別展会期中
会場 特別展示館2階特設コーナー
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

■関連イベント
ギャラリートーク
会場 特別展示館

日時 5月5日(土・祝)11時～11時30分
講師 鈴木紀(本館准教授)

日時 5月12日(土)11時～11時30分
講師 三島禎子(本館准教授)

日時 5月19日(土)11時～11時30分
講師 新免光比呂(本館准教授)

日時 5月26日(土)11時～11時30分
講師 南真木人(本館准教授)

※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

企画展

「アーミッシュ・キルトを訪ねて」そこに暮らしそして世界に生きる人びと」
無地の服を着て馬車を駆る北米のキリスト教再洗礼派アーミッシュが布の端切れを生かしてつくるキルトは、その鮮やかな色合いや細やかなステッチで人びとを惹きつけています。2011年より収集してきたみんなくコレクションを素材として、キルトに織りこめ



裁縫セット

た日々の暮らしや物語、キルトが結ぶ世界との交流をたどりま。

会場 6月21日(木)～9月18日(火)
会場 本館企画展示場

みんなく映画会・第41回ワールドシネマ
「少女は自転車にのって」
明朗活発な10歳の少女ワジタの日常生活や願いをとおして、サウジアラビアにおける女性の状況について考えます。

日時 6月9日(土)13時30分～16時(13時開場)
会場 本館講堂(定員450名)
※申込不要、要展示観覧券
※入場整理券を当日11時から本館2階講堂前に配布

音楽の祭日2018 in みんなく
1982年にフランスで、夏至の日にみんなくで音楽を楽しむ音楽の祭典「がはじまりました。みんなくでも、世界のさまざまな楽器を使って、音楽の祭日」を祝います。

日時 6月17日(日)10時30分～16時30分(10時開場)※予定
会場 本館エントランスホール等
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)
方は、展示観覧券が必要です。
お問い合わせ先

企画展 「アーミッシュ・キルトを訪ねて」担当
06・6878・8210
(土日祝を除く9時～16時)

みんなくミュージアムパートナーズ(MMP)ワークショップ「あそびの広場2018」
「パネルシアターでみんなく展示を知ろう!」
パネルシアター・昔話公演や試着体験、あそびのコーナーなど、MMPと一緒に楽しい1日を過ごしませんか?

日時 5月5日(土・祝)10時～16時
※パネルシアター・昔話公演は①12時
②13時③14時④の各回20分
会場 本館エントランスホール

対象 大人から子供まで
(未就学児保護者同伴)
※申込不要、参加無料

●国際博物館の日記念事業
国際博物館の日を記念して、5月20日(日)にご来館いただいた方から先着100名様にみんなくオリジナルメモ帳をプレゼントいたします。

●みんなく無料シャトルバスのご案内
大阪モノレール「万博記念公園駅」ごみんなくへの直通送迎バスを特別展「太陽の塔からみんなくへ」70年万博収集資料」の会期中に運行します。

運行日 5月29日(火)までの土曜・日曜・祝日
1日11往復、所要時間10分、無料
平日、4月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日・祝)、30日(月・振休)

※万博記念公園でイベントが開催される場合は臨時に運休することがあります。詳細は本館ホームページをご覧ください。

大阪モノレール
万博記念公園駅発

時	10	06	36
11	06	36	
12		46	
13	16	46	
14	26	56	
15	26	56	
16			
17			

国立民族学博物館発

時	10	50
11	20	
12	30	
13	00	30
14	10	40
15	10	40
16	30	
17	00	

※各イベントについてくわしくはみんなくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

みんなくゼミナール

日時 5月19日(土)13時30分～15時(13時開場)
会場 本館講堂
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は展示観覧券が必要です)
第480回
聖都エルサレム
講師 菅瀬晶子(本館准教授)
一神教共通の聖地エルサレム。なぜこの街が聖都と呼ばれ、なぜその帰属が問題となるのか、パレスチナ・イスラエル双方の視点、さらにはアメリカで力を持つキリスト教右派の視点を比較しつつ、お話しします。



エルサレム旧市街の聖墳墓教会
キリスト教最重要の聖地

みんなくウィークエンド・サロン
研究者と話す

本館の研究者が「現在取り組んでいる研究」「調査している地域(国)の最新情報」「みんなくへの展示資料」について分かりやすくお話しします。

5月6日(日)14時30分～15時15分 本館ナビひろば
専門家が専門外に手を伸ばすとき
アフガニスタンから来た偶像
話者 吉岡乾(本館助教)

5月13日(日)14時30分～15時15分 本館ナビひろば
1960年代のアフリカ
話者 三島禎子(本館准教授)

5月20日(日)14時30分～15時15分 本館ナビひろば
自由への渴望と抑圧
1960年代の東ヨーロッパ
話者 新免光比呂(本館准教授)

5月27日(日)14時30分～15時 本館第3セミナー室
失われつつあるものを、かき集めた
日本資料の紹介
話者 卯田宗平(本館准教授)

※申込不要、参加無料(要展示観覧券)
ただし、27日(日)は展示観覧券不要
※全て特別展「太陽の塔からみんなくへ」70年万博
収集資料に関連した内容で開催します。

■福岡 まどか、福岡 正太 編著
『東南アジアのポピュラーカルチャー
——アイデンティティ・国家・グローバル化』
スタイルノート 4,000円(税別)



東南アジアの人々が文化に関わる多様な価値観とどのように向き合っているのか、そうした文化の中で自らをどのように位置づけているのか、という問題を人類学・地域研究の立場から考察した論文集。東南アジア文化の現状、興味深い現象を多彩な執筆者が読みやすく紹介している。

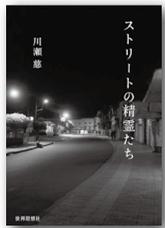
■小野 林太郎、長津 一史、印東 道子 編
『海民の移動誌
——西太平洋のネットワーク社会』
昭和堂 4,000円(税別)



先史時代から、海を生活の舞台とした集団＝海民。かれらは、現代に到るまで広大な海の上にネットワークを形成し、移動、交流を続けてきた。しかし、その全体像は、その広大さもある、判然とはしていない。本書は、彼ら「海民」の移動と交流の実像を、考古学と人類学の立場から明らかにする。

刊行物紹介

■川瀬 慈 著
『ストリートの精霊たち』
世界思想社 1,900円(税別)



エチオピア北部の都市ゴンダールのストリート。そこは喜怒哀楽が交錯する奥深い空間である。本書は、現代アフリカの都市のストリートに息づく人々の夢や希望、生きざまを、著者と彼ら/彼女たちとの交流を軸に、様々な語り口で描きだす。

友の会

友の会講演会

会員無料(会員証提示)、一般500円

第478回友の会講演会
カフィール・カラ遺跡とゾロアスター教
発掘調査で出土した木彫り板絵から読み解く

講師 寺村裕史(本館准教授)
日時 6月2日(土)13時30分～14時40分
会場 本館第5セミナー室(当日先着順・定員96名)

カフィール・カラ遺跡は、中央アジアのシルクロード都市サマルカンド(ウズベキスタン共和国)から南東方向に30キロメートルほど離れた場所に立地しています。遺跡から発掘された木彫り板絵には、獅子に乗った姿の女神ナナ、捧げものや燭台をもつ人、琵琶・竖琴・角笛の奏者などが彫り込まれています。女神ナナは、ゾロアスター教の中心的な神であったと考えられており、本講演では板絵の図像について遺跡の性格と絡めながら紹介いたします。
※講演会終了後、3次元レーザースキャナーを使った3D計測を実際におこないます(40分)。

第92回民族学研修の旅関連
ヒンドゥー教祭祀の読み解き方
講師 三尾稔(本館教授)

第123回東京講演会
東京 第123回東京講演会
日時 6月23日(土)13時30分～14時40分
会場 モンベル渋谷店5F(サロン)
(申込先着順・定員60名)

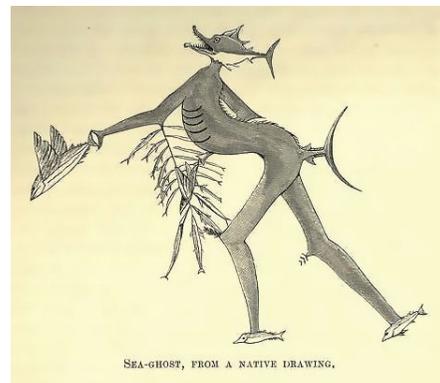
第479回友の会講演会
大阪 第479回友の会講演会
日時 7月7日(土)13時30分～14時40分
会場 本館第5セミナー室(当日先着順・定員96名)

第92回民族学研修の旅
融合と共存の北西インドをゆく
女神信仰とインド叙事詩の祭祀の期間に訪ねる

講師 三尾稔(本館教授)
日程 10月13日(土)～22日(月) [10日間]

第79回体験セミナー
富士山 信仰の世界

講師 秋道智彌(山梨県立富士山世界遺産センター所長、本館名誉教授)
日程 8月26日(日)～27日(月)



半魚人の図(出典: R.H.Codrington (1891) *The Melanians: studies in their anthropology and folk-lore* p.259.)

◆◆◆半魚人の正体◆◆◆
 右端の資料の頭部は魚で、胴体と四肢は人間の形をしている。手には魚をもち、尻には魚の尾鰭おびれがあり、魚の口吻くちゅうぶんがペニスに突き刺さっている。魚と人間の両方の属性をもつ木製の造形物は、半魚人といつてよいが、いったいこれは何なのか。
 これは魚釣りの道具で、とりわけトビウオ用のものである。ちょうど尻のあたりに見える茶色の「くの字」形の部分に餌となるヤドカリの肉をつける。ふつうのフック型の釣りばりとは異なりゴージごうじ(かかり)とよばれる。餌をつけて海面にこの漁具を流すと、半魚人はプカプカと浮く。トビウオが餌に喰いつくと、浮きの動きが

◆◆◆トビウオ漁の謎◆◆◆
 なぜこうした半魚人のイメージが生まれたのだろうか。一九世紀に英国の人類学者であるR・H・コドリンソンはメラネシアの調査をもとに『メラネシア人——人類学と民俗の研究』(邦訳なし)を著した。そのなかに、前述の漁具ときわめて似た図が掲載されている(上図)。それを見ると、頭部は魚で、足の指が小さな魚からなっている。胴体と四肢は人間の形をしており、左手に胸鰭むねびれの大きな魚をもっている。おそらくトビウオであろう。また、肘は多くの小魚がつながった状態で描かれており、口吻が長い。尻には魚の尾鰭がついて

変化する。最下部の白い部分は石製のもりで、浮きを垂直にするための工夫である。
 この漁具はソロモン諸島のサンクリストバル島周辺で用いられる。半魚人以外にも、魚をくわえる鳥や二尾の魚のデザインのものもある。ミクロネシアの中央カロリン諸島でも、ココヤシの果肉を餌としてゴージを使うトビウオ漁がおこなわれている。ただし、浮きには半魚人や海鳥、魚の形ではなく、なかの果肉をくりぬいたココヤシの殻が用いられる。

おり、背中には背鰭せびれの細かい突起がある。この図はサンクリストバル島の現地住民が描いたものであり、シー・ゴースト(海の死霊)をあらわす。人間が死後、海の死霊となつた存在はアダロとよばれ、人間に危害を加えることがある。人間が航海から戻らなかつたり、海で病気になるのは、海の死霊が放つた槍やりや矢に刺されたためとされる。槍は口吻の突き出たサヨリを、矢は空を飛ぶトビウオをそれぞれ指すメタファー(隠喩)となっている。人びとは海の死霊の怒りを鎮めるため、ビンロウの実や食物を海に投げ入れた。
 それでは、海の死霊をあらわす漁具でトビウオを獲る行為はどう説明できるだろうか。海の死霊の使う武器がトビウオである。トビウオは人間に危害を加えることがあるが、海の死霊とは親密な関係にあるため、海の死霊を見つけるとそばに寄ってくる。
 ただし、海鳥や魚の形をした浮きにわざわざトビウオが喰いつくことをうまく説明できない。トビウオは死霊に引き寄せられるのか。海鳥や魚の浮きは単なるかざりで、トビウオは餌に喰いつくだけなのか。人間の技術のもつ意味は不可解で、その謎は深まるばかりだ。

想像界の生物相 海の死霊とトビウオ漁

あきみち ともや
 秋道 智彌
 民博 名誉教授



資料名 釣具
標本番号 右から H0124948、H0124949、H0124954
地域 ソロモン諸島
サイズ 右から 長さ 54cm、50cm、54cm

新世紀ミュージアム

言語学者を育てて世界各地に送り込み、書記法の導入と識字教育に貢献してきたS・L・インターナショナル。その活動実績に基づき、関連団体であるジャールズとウィクリフは、それぞれ、文字の博物館、言語の博物館をもつ。ここでは、前者について背景も合わせて紹介する。

文字の博物館

「文字の博物館」は、ジャールズ(JARS)の基地である、ノースカロライナのワクソーにある。ジャールズという名前は、「ジャングル航空無線サービス」Jungle Aviation and Radio Services」の略称からきている。世界では現在、約



博物館外観 (写真はすべてArthur Lightbody氏提供)

れていたりと、現在使われている文字のサンプルがあったりする。

この博物館は一九九一年に設立されたそうだが、装置展示一点をのぞき、すべてがアナログである。わたしのお気に入りには、「死海文書」という二〇世紀半ばに発見されたヘブライ語で書かれた聖書と関連写本群の年代推測展示だ。文書の字体が書かれたパーツを、文字の変遷を年代順に並べた板の上でスライドさせるようになっていて、単純な装置だ(下写真)。来館者はこの作業を自分の手でおこなうことで、この文書がいつの時代にしるされたのかを、研究者気分「解明」することができるようになっている。ジャールズはS・L・インターナショナルの活動に対してインフラ面でのサポートを続けてきた団体である。その気になれば、装置展示を操ることもできたであろうことを思えば、展示デザイン策定の経緯に関心がもたれるが、残念ながら気づいたのは帰国後だった。

文字の博物館と言語の博物館

外から見ると小さな建物なのに、なかは情報でいっぱいこの博物館、じつは、他の博物館へのサポートまでしていたりする。現在、バーチャル&訪

七〇〇〇の言語が話されているといわれており、部分訳、全訳を含め、その約三分の一に聖書に関するなんらかの訳がある。これは一九三四年に設立されたS・L・インターナショナルが、聖書の翻訳のために世界各地で言語調査をおこない、識字活動が続いているからだ。例えば、フィリピンのルソン島ポントックのギナン村では、今こそ道がつながり携帯電話が使えるが、一九六〇年代には徒歩でなければ到達できず、一度入ってしまったら外界とは連絡がとれなかった。世界には、もっとアクセスが悪い地域もあったし、今もある。ジャールズは、離着陸場を整備して小型飛行機を飛ばしたり、無線通信設備を準備するなど物理的な面を請け負い、S・Lの奥地での翻訳活動を可能にしてきた。音しかもたない言語に、書記法II文字を導入する活動をサポートしてきたのが、ジャールズの

そう考えると、この団体が「文字」の



あなたも古文書学者になれる? 死海文書の年代分析のシミュレーション展示。隣にあるのは、文書が発見された洞窟の再現展示



手作り感いっぱいの博物館には、漢字がどのように日本語の文字に変化したのかに関する展示も

博物館を運営しているのも、納得できる。

二一世紀のアナログ博物館

現在、世界で使われている文字には、アルファベット系、漢字系、その他がある。日本語のカナは、漢字の系統の末裔だ。また、楔形文字、ヒエログリフなど、消滅してしまった文字もある。文字の博物館には、これらのさまざまな文字の歴史がわかりやすく展示されている。例えば、人が文字を刻んでいる光景の再現では、文字の形とツールのあいだにとっても強い関係があることが説明を読まずとも見てとれ、おもしろい。さらに、文字の発達過程が示さ

問博物館を展開するアメリカの「国立言語博物館」は、二〇〇八年から六年間、小さな展示ギャラリーをもっていたが、そのなかには、文字の博物館から借りたという「文字の系統樹」があった。文字や言語は、アナログが装置かを問わず、基本的には情報の展示なので、博物館どうし相互に協力することができ。こう考えると、文字の博物館あらゆる面で最先端を行っているとはいえないか?

文字は言語を書きしるす手段であり、言語がないところに文字は存在しない。そのような観点から見ると、同じくS・L・インターナショナル関連のウィクリフ聖書翻訳協会が運営する「ディスカバリーセンター」(フロリダ州オーランド)は、「言語」の部分を表示しており、文字の博物館の姉妹博物館ともいえる。ここには、ジャールズのサポートで文字が導入される前後の言語の世界、文化や社会のあり方、また言語調査の方法などが、しっかり展示されている。わたしとしては、これらふたつの博物館、「文字の博物館」と「言語の博物館」を隣合わせで一緒に見ることができれば、どんなに贅沢かと思うのだが……。いや、知をえたければ、旅をせよ、ということか。



アート映画が描き出す Bangladesh のアイデンティティ

南出 和余
（なみで かずよ）

桃山学院大学准教授

Bangladesh ・アート映画

二〇一五年の Bangladesh シュ・ナショナル・フィルム・アワードに選ばれた「オニル・バグチの一日」は、 Bangladesh シュを代表する現代小説家フマユン・アフメッド（一九四八―二〇二二）の同名小説を、こちらも現在の Bangladesh シュ映画を牽引するモルシエドゥル・イスラム監督（一九五七―）が映画化した作品である。フマユンは小説家としても、また映画監督としても、階層を超え広く Bangladesh シュの人のびとに愛されてきた。そのストーリーは、 Bangladesh 民族の豊かな情緒と温かくユーモアに満ちた人柄が、世の中の雑多な矛盾を優しく包み込むものが多く、過度なイデオロギーをはずかしく見ながら弱者に光を当てる。モルシエドゥル監督はそんなフマユン小説を、



オニルのクライマックスシーンの撮影風景

ある日、ダッカで暮らすオニルのもとに、父が Pakistan 兵に殺害されたという知らせが届く。一人残された姉オトシを思い、オニルは帰郷を決意する。映画が描く一日は一九七一年、つまり Pakistan からの独立戦争下の一日である。 Pakistan 兵から名前を聞かれて「オニル・バグチです」と名乗ることさえ危険がともなう情勢であった。その名前が Hindoo 教徒であることを明示するからだ。一九四七年の印パ分離独立の際、 Bangladesh 東部の人びとは同じ Bangladesh 民族が暮らすインド西 Bengal 州とは袂を分かち、 Islam を旗印に Pakistan の東

「オニル・バグチの一日」

原題：অনিল বাগচীর একদিন

2015年 / Bangladesh シュ / Bengal 語 / 120分

監督：モルシエドゥル・イスラム

出演：アレフ・サイード、ジュティカ・ジュティ、ガジ・ラカエットほか

日本での公開なし

映画最後のシーンの撮影風景。
霧の降りる夜更けをシーンに生かす



翼としての道を歩んだが、そのなかには英領時代以前から暮らす Hindoo 教徒も多かった。しかし、一九七一年の独立戦争下、 Pakistan 軍が Bangladesh ・ムスリムより先に排除しようとしたのが Bangladesh ・ Hindoo 教徒であった。情勢が悪くなるにつれ、多くの Hindoo 教徒が土地を捨てインド側への避難を余儀なくされた。独立戦争を語る小説や映画のなかには、そうした Hindoo 教徒との別れを描いた作品が少なくない。

興味深いのは、オニルに対する周りのムスリムの人びとの描かれ方である。下宿先の大家も勤め先の上司も、オニルをかくまうことで自分に降りかかるリスクを感じながらも、なんとかオニルを守ろうとする。それは故郷へ向かうバスで乗り合わせたアユブも同様だがさつなほどに馴れ馴れしいアユブは、オニルの名前を聞いた途端に危険を察知し、見ず知らずの彼に自分の

義甥の名前（ムスリム名）を名乗るよう勧め、 Pakistan 兵からオニルを救おうと努める。このオニルに対するアユブの心性こそが、現代の Bangladesh シュのアイデンティティを示している。

映画は自然に忠実であれ

本映画制作中の二〇一四年、わたしは Bangladesh シュに滞在しており、幸いにも撮影に同行する機会を得た。本映画の製作費は約一五万米ドルと低コストだったが、その背景にはローカルな素材が最大限に活用されていることがある。四三年前の状況を再現するため、地方に行けば今も走っているおんぼろバスを探し出してきた。また、 Pakistan 兵がもつ銃のレプリカ製作費を節約するため、本物の銃を所持できる本物の警察に演じてもらった。そして何より自然は紛れもない本物である。雨が降れば雨のシーンを撮り、日が沈むのを待つ。映画は Bangladesh シュの農村風景の美しさ、人びとが誇りとし心の拠り所とする「黄金の Bangladesh （シヨナル・ Bangladesh）」に忠実である。



映画の舞台となったおんぼろバス。今も地方の町を走っている

映画のなかでオニルの父親が発するメッセージと、映画そのものが映し出す自然の美しさが重なり合って、 Bangladesh シュの人のびとに共感と感動をもたらす。「オニル・バグチの一日」は、まさに Bangladesh シュの人のびとのアイデンティティを知るうえで大切な映画である。

ニホン語かニッポン語かジャパン語かジャパニーズ語か



What's in a name?

よしおかのぼる
吉岡 乾

民博 人類基礎理論研究部



世界では今、大小合わせて数千もの言語が話されている。

この『月刊みんぱく』の原稿が書かれているのは、「日本語」だ。日本の義務教育で学ぶ異言語は「英語」だけ……ではなく、古典の授業で習った『万葉集』などの「上代日本語」「土佐日記」などの「中古日本語」「徒然草」などの「中世日本語」なんかもある。漢文の授業で扱ったのは、「中期中国語」とでもよべる言語であった。国名が付いている言語名も多く、「ドイツ語」「フランス語」なんてのは大学で学んだ人も多いことかと思ふ。一方で「アラビア語」「アイヌ語」などを考えると、言語名に用いられるのが国名だけではないのだということも、すぐにわかる。

二〇一五年四月二日に日本では、グルジアとよんでいた国の名前をジョージアと言い換えるようになった。「グルジア」はロシア語、「ジョージア」は英語由来の名称であり、ジョージアからの要請を受けてポリティカル・コレクトネスのために換えたというのだが、何故ロシア語は不適切で英語が適切だというのが不明瞭だと個人的には思えた。公用語のグルジア語での自称国名は「サカルトヴェロ」(“Sakartwelo”)なのに、何故英語を優先したのだろうか。ともあれ、国名は変わったが、「グルジア語」という言語の和名は依然として使われ続けている場面が多く思える。同じ概念を指す以上、定着している用語を守るとするのは、通時的に一貫して物事を考えていくうえで大切な工夫だろう。

定着ということでは、筆者の研究している言語の「ブルシヤスキー語」という名称もだ。本当ならば「ブルシヤスキ」と語末を短く発音するのが自称なのだが、英語などで“Russians”と綴られると長短が区別できず、周辺に「ヒンディー語」(Hindi)、「パンジャービー語」(Punjabi)などと、ニで綴られて「イー」音で終わる自称の大言語があった所為であろうか、予てより和名が「ブルシヤスキー」となってしまうていた。

「パンジャービー語」は「パンジャーブ語」ともよばれる。「パンジャービー」が「パンジャーブの」という意味だからである。「ヒンディー」も語源的に「ヒンド(=シンドリンドリンドラス)」のという意味だが、「ヒンド語」などはよばれていない。何故だ。

調査対象には「ドマーキ語」とよんでいる言語もあり、これもじつは、何とよぶかが悩ましい。今ではほとんどふたつの集落にしか話者が居ないのだが、方言差があり、片方は「ドマーキ」、もう片方が「ドマー」と、自称言語名が異なっている。しかも、前者は周辺優位言語であるブルシヤスキー語的な名称、後者は周辺優位言語であったシナー語的な名称で、本来の自称が(あったとしても)失われてしまっているので、なおさらどちらに軍配を上げるのにも決定打が足りていないのが実情である。研究者たちが「ドマーキ語」とよぶのは単に、一九三九年に初めてされた研究がそちらの方言を扱い、その名称(“Dumaki”)を採用していたからである。

さあ改めて、“Japanese”は何とよぶべきだろうか。

編集後記

本特集は出口正之教授の共同研究「会計学と人類学の融合」と連動して「お金を数える」をテーマにしてみた。小生の調査地の人たちが好む小話には、借金をテーマにしたものがある。村の小型店舗の扉に長大な人名リストが掲げられている。客がこれはなんだと主人に質すと、黒字で名前の上に線が引かれているのは返済済み、線が引かれていないのは未返済という。それ以外に赤字で斜線が引かれた債務者のリストが一番長く続いている。客の一人が再度これはなんだと訊くと、「この〇〇は、返さないであの世にいった奴だ！」と悪態をつくというのが落ちである。

この小話のように、村のなかのゆっくりした生活のなかでは借金はお互い様、完済しないこともありふれているといえる。一方で、現行の金融制度では救いきれない需要があるであろう、都市部での金貸し業は非常に繁盛しているという。つまりそうした商売が成り立つ程度には返済の義務を感じているのだ。小生にも調査地で会うたびに「あのお金のことは覚えているから（大丈夫）」と口にする知己が何人もいるが、これは返済を期待していいのだろうか。迷うところである。（丹羽典生）

●表紙：右上から時計回りに
石貨 (H0098796)、貝貨 (H0279249)、巫俗儀礼用貨幣 (H0214732)、
貨幣 (H0030930)、祖先祭祀用紙銭 (H0215420)、
儀礼用貨幣 (H0190041)、紙幣 (H0279615)、儀礼用貨幣 (H0189976)

次号の予告

特集

「アーミッシュの生活と文化」(仮)

みんぱくをもっと楽しみたい 人のために—会員制度のご案内

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます（特別展示は観覧料割引）。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ

みんぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

月刊みんぱく 2018年5月号

第42巻第5号通巻第488号 2018年5月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 園田直子

編集委員 丹羽典生(編集長) 寺村裕史 三島禎子
南真木人 山中由里子 吉岡乾

デザイン 宮谷一孝 長岡綾子

制作・協力 一般財団法人 千里文化財団

印刷 毎日新聞社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」 「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱくフェイスブック

<https://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんぱくツイッター

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

みんなのほくぶつかん みんぱく

MINPAKU

みんぱくオリジナルデザインの フィールドノートができました!

調査地で見聞きし、考えたことを記録するフィールドノートは、フィールドワークに欠かすことのできないツールです。当館ミュージアム・ショップでは、オリジナルのフィールドノートの販売をはじめました。

「フィールドノートってどんなものだろう」と思った方は、ぜひ当館の「梅棹忠夫アーカイブズ」で、初代館長梅棹忠夫氏のフィールドノートをご覧ください。(ノートに日付やページ数をつけるなどの、記録された情報を後の研究に役立てる工夫も必見です)

使い方はみなさん次第です。ぜひみんぱくのフィールドノートを趣味や研究にご活用ください。



ハードカバーで、中のページは スケッチもしやすい方眼紙タイプ
サイズ：165×95 (mm)
価 格：500円 (税込)

「梅棹忠夫アーカイブズ」

<http://nsearch.minpaku.ac.jp/umesao-archives/index.html>

お問い合わせは

国立民族学博物館ミュージアム・ショップまで

e-mail : contact@senri-f.or.jp 水曜日定休

Indonesian Cross-Gender Dancer DIDIK NINI THOWOK

福岡まどか 著 古屋均 写真 定価 5400 円+税 2018 年 2 月刊行 B5 変形判並製・160 頁 ISBN978-4-87259-598-7
インドネシアを拠点として世界的に活躍する女性ダンサー、ディディ・ニニ・トウォの多彩な魅力に迫る。DVD 付。

インドネシア上演芸術の世界 伝統芸術からポピュラーカルチャーまで

福岡まどか 著 定価 2000 円+税 2016 年 3 月刊行 A5 判並製・188 頁 ISBN978-4-87259-533-8

シリーズ人間科学 1 食べる 八十島安伸・中道正之 編

定価 1800 円+税 2018 年 3 月刊行 四六判並製・238 頁 ISBN978-4-87259-618-2

執筆：清水（加藤）真由子・中道正之・八十島安伸・竹田剛・佐々木淳・渥美公秀・中川敏・木村友美・岡部美香・楡垣立哉

大阪大学出版会 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-7 大阪大学ウエストフロント
Tel 06-6877-1614 Fax 06-6877-1617 info@osaka-up.or.jp <http://www.osaka-up.or.jp/>

海民の移動誌

西太平洋のネットワーク社会

小野林太郎
長津一史 編
印東道子



海民の移動誌

西太平洋のネットワーク社会

先史時代から現代まで、海の上のネットワークはどう機能したのか。海に生きる人々とそれに伴う資源の移動から、海上の歴史に迫る。

編者
小野林太郎：東海大学海洋学部准教授
長津一史：東洋大学社会学部准教授
印東道子：国立民族学博物館教授

〈4 月新刊〉4,320 円

先住民からみる 現代世界

わたしたちの〈あたりまえ〉に挑む

アイヌやマオリなど先住民として権利を主張する人々。彼らは世界をどんなふうに見ているのだろうか？

深山直子・丸山淳子・木村真希子 編 2,700 円

昭和堂

京都市山科区日ノ岡堤谷町 3-1
Tel. 075-502-7500/Fax 075-502-7501
<http://www.showado-kyoto.jp> (税込)